

# ビジネスアーキテクト補記：プロダクトマネージャー定義の背景・前提、期待される役割

- 日本においても一般的となりつつあるプロダクトマネージャーについて、DXを推進する人材の一つとして定義を行い、本標準に補記する。

## ◆ プロダクトマネージャー補記の背景・前提

- ✓ プロダクトマネージャーは、グローバル標準において一般的な職種として設定されており、また、日本においても特にデジタルサービスを提供する企業における職種として浸透してきている。
- ✓ 上記において、プロダクトマネージャーは、ビジネスアーキテクトと類似性がある職種として定義されている。
- ✓ このような実態を受け、DXを推進する人材の一つとしてプロダクトマネージャーの定義を行い、ビジネスアーキテクト類型に補記を行う。

## ◆ 期待される役割

- ✓ プロダクトマネージャーの源流は、一部の企業で設置された、事業、製品・サービスの価値向上をミッションとした職種であるとされている。この職種の役割は、事業、製品・サービスの価値向上に向け、構想策定からリリース、その後の改善までのプロセスを関係者をリードしながら一貫して推進することであるが、DXを推進するプロダクトマネージャーにおいても、同様の役割が求められていると考えることができる。
- ✓ 上記を踏まえると、プロダクトマネージャーは以下の点でビジネスアーキテクトと共通性があるといえる。
  - 関係者をリードしながら目的実現に向けた各プロセスを一貫して推進する点
  - 製品・サービス及びその付随活動（デジタル技術を活用した事業）について、それら単独だけでなく複数を組み合わせて、目的実現に向けた取組みを推進する点

# ビジネスアーキテクト補記：プロダクトマネージャーの担う責任・主な業務・スキル

- DXを推進するプロダクトマネージャーについて、担う責任や主な業務、必要なスキルを以下のとおり定義した。

## ◆ DX推進において担う責任

- ✓ ビジネスの変革を通じて実現したい目的・世界観を設定し、それを実現するための事業、製品・サービス（プロダクト）の戦略策定から開発、リリース、その後の改善までのプロセスを一貫して推進し、社内外の関係者の巻き込み等をリードしながらプロダクトの価値を継続的に向上する。

## ◆ 主な業務

- ✓ ビジネスの変革を通じて実現したい目的・世界観を設定し、その実現に向けて社内外の環境、社会や顧客・ユーザーのニーズ、技術動向等を踏まえた戦略策定を行う。
- ✓ 戦略を実行するために、プロダクトの開発、リリース、その後の改善を含むあらゆるプロセスにおいて、プロセス相互の関連性を見極め、起こりうる問題への対応方針を決定する。
- ✓ 品質評価や顧客・ユーザーからのフィードバックに基づき、プロダクトを改善するとともに、プロダクトのポジショニングや顧客・ユーザーのニーズ分析、収益性向上施策の検討を通じた収益及びユーザー価値の最大化を行い、現状のプロダクトの価値にとどまらない継続的な価値向上を実現する。
- ✓ 戦略策定から開発、リリース、その後の改善を含むあらゆるプロセスにおいて一貫して、関係者全体のコーディネート（明確かつ影響力のあるコミュニケーション、パフォーマンス向上に向けたチーム作り等）を担う。

## ◆ 必要なスキル

- ✓ プロダクトマネージャーは、関係者をリードしながら各プロセスを一貫して推進するという点で、ビジネスアーキテクトと共通の役割であることから、その役割を果たすために必要なスキルもビジネスアーキテクトと共通であると考えられる。
- ✓ 上記を踏まえ、プロダクトマネージャーに必要なスキルは、ビジネスアーキテクト（新規事業開発及び既存事業高度化）に必要なスキルと共通であるものとする。

# 補足資料 | デジタルスキル標準におけるプロダクトとは

- デジタルスキル標準におけるプロダクトは、単独の製品・サービス（狭義のプロダクト）だけでなく、それに付随する活動も含めてプロダクトと称される（広義のプロダクト）

